



昭和大学  
SHOWA University

—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療  
先進的医療の推進  
医療人の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎  
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司  
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)  
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

## むし歯治療の今昔物語

美容歯科 診療科長・教授 真鍋 厚史

私は37年間の歯科病院勤務をさせていただきました。当初は保存修復科という診療科に所属し目的はいかに歯の神経を残して今まで通り美味しく飲食ができるようにすることでした。その時代（1983年代）、奥歯は銀歯、前歯は白いプラスチックのような詰め物が主流でした。患者さんからは奥歯も歯と同じ色にしてほしい、また前歯の詰め物はすぐ取れてしまうという苦情をよく耳にしました。

それから数年経過後、世界中でプラスチックの詰め物と歯の接着剤の研究が多くなされ前歯の詰め物もしっかり接着するようになり、さらに奥歯にも前歯と同様の材料が使用できるようになりました。これにより患者さんの満足度が向上したと思います。

そして歯科病院の組織改革が2004年に行われそれまでのむし歯治療科から名称が美容歯科に変更されました。このことにより従来通りの治療に加えて、歯のホワイトニングや歯科治療終了後の継続的な口腔管理（お口の中に新たなむし歯や歯周病がない

かを検査し汚れ取り等をする）を実施することにより歯科医師のみならず歯科衛生士の患者さんへの取り組みも一層多くなりました。それから20年が経過した現在も多くの患者さんが来院していただき患者さんのご要望に応えられていると思っております。



今後はより一層若い世代の歯科医師、歯科衛生士が患者さんのご要望にお応えでき更に先進かつ安全性の高い歯科治療が可能であることを確信しております。特に昭和大学は医系総合大学です。歯科のみならず医科や薬学、保健医療との連携を強化することで日本一(いや)世界一の医療を提供させていただく所存です。最後になりましたが長い間、患者さんをはじめとし昭和大学の職員の方々に深く感謝の意を表し締め言葉とさせていただきます。



- P1 巻頭言 むし歯治療の今昔物語
- P2 退任のご挨拶
- P3 退任のご挨拶
- P4 退任のご挨拶、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

■ 患者さん向け、 ■ 医療機関向け、 ■ お知らせなど

## 退任のご挨拶

内科クリニック 診療科長 木庭 新治

2020年4月1日、井上紳教授の後任として内科クリニックに診療科長として赴任しました。

新型コロナウイルス感染症の国内第1例が同年1月16日神奈川県で発見以降、急速に蔓延し、赴任1週間後に緊急事態宣言が発令され、1ヶ月半続きました。学生実習の中止、オンライン講義など生活様式が一変し、開催予定の東京オリンピック・パラリンピックが延期になりました。外来受診者の減少、電話診療の導入、発熱外来の開設など、診療内容も変化しました。

幸い、内科クリニックの外来患者数は同年6月以降回復し、睡眠時無呼吸症候群に対する夜間の陽圧換気療法の推進など患者数はむしろ増加しました。その後睡眠歯科外来が開設され、医科歯科連携を推進し今日に至っています。

私は、老年科指導医として高齢者医療が診療の柱の一つでしたので、新たな取り組みとして、口腔機能に着目し、高齢者歯科（現在の口腔機能管理科）と連携し、通院患者さんのオーラルフレイルの評価を2021年1月から開始しました。驚いたことに、独歩で通院している70歳以上の患者さんの半数以上にオーラルフレイルを認めました。同様の調査を昭和大学病院循環器内科に心不全が原因で入院中の患者さんで調べたところ、80%以上の患者さんがオーラルフレイルに該当することがわかりました。

2022年、体内終末糖化産物測定器（AGE Reader）を購入し、体内に溜まっている不可逆性の糖化・酸化物を測定し、からだの老化度を評価し、医科歯科連携に役立てています。

また、昭和大学病院との連携を強化しました。ほぼすべての画像検査、生理機能検査は内科クリニックから直接予約できるシステムを構築しました。これは、昭和大学病院の循環器内科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、放射線科、医療連携室のご理解とご協力によるもので、検査内容を説明する内科クリニックの看護師、事務職員にも深く感謝しています。診療と研究を兼ねた検査を推進できたことは臨床病理検査室のご協力によるもので、この場を借りて感謝いたします。

内科クリニックでは、睡眠中の血圧測定や口腔機能を含めた包括的医療に取り組んでおり、医科歯科連携を念頭に置き、今後の医師人生に活かしていきます。

4年間貴重な機会をいただきありがとうございました。4月以降も週一回半日外来診療を継続させていただきますので、今後ともよろしく願いいたします。



## 退任のご挨拶

補綴歯科 准教授 岩佐 文則



1993年にご縁があり昭和大学歯学部部分床義歯学講座の門を叩きました。その後、講座の再編に伴い全部床義歯学講座、冠橋義歯学講座との補綴3科の合併を経て、2005年から補綴学総合講座の一員として瞬く間に31年が過ぎ去りました。

この間、昭和大学歯科病院の補綴歯科において専門性・先進性の高い補綴（義歯）治療を目指して邁進して参りましたが、当初難解だった補綴学も時間とともにかなり整理されてきたように感じております。そして2008年には米国UCLA歯学部のワイントロープセンターに留学し、インプラントを中心とした

再建生体工学と義歯設計の理論を学び直すことができました。

長い間、本当に多くの事を学ばせていただいた昭和大学に感謝を申し上げます。今後はこれまでの経験を活かし、新たな挑戦に取り組むこととなりますが、皆様とのご縁を大切に、また何かの機会でお会いできることを楽しみにしております。これまでのご支援・ご協力に心から御礼を申し上げ、退職のご挨拶とさせていただきます。

最後になりますが、これからもどうぞ昭和大学歯科病院をよろしくお願いいたします。

## 退任のご挨拶

医科歯科連携診療歯科 准教授 伊佐津 克彦



この度、3月末日をもちまして定年を迎え、退職することとなりました。

月日が経つのは本当に早いもので、平成2年に昭和大学を卒業し、すぐに大学院に進学・修了後、昭和大学歯科病院に入職して30年間、私が今日まで勤め上げることができたのは、患者さん、諸先輩の方々、後輩、コデンタルスタッフ、多くの方から教えていただき、私を導いて下さりサポートして下さいました皆様のお蔭と、心より感謝いたします。

卒業当初はさまざまな治療が経験できると考え歯周治療を専門にしたいと思っていまし

た。米国ペンシルベニア大学にも2年間留学の機会をもらい、見識を広げることができたと思っています。その後、総合的な歯科治療や予防や患者管理に興味を持ち、さまざまな経験をさせていただきました。

学生・研修医への教育でも、あまりできない経験をさせていただき、在職中はひとかたならぬお世話になり本当にありがとうございました。皆様のさらなるご健勝とご活躍、そして昭和大学歯科病院のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。





## 退任のご挨拶

看護師になったばかりの頃は、まさか定年まで・・・と書いておりましたが、あっという間に白衣の天使から白衣の老婆になってしまいました。昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院、最後は歯科病院にお世話になり、たくさんの診療科を経験し学ぶことができたことは私の宝物です。

そして、たくさんの人との出会いがありました。患者さんとは、うれしい再出逢いの笑顔を共に

したり、悲しい旅立ちの涙も共にしたり、管理者としては、辛かったり、我慢しなければいけないときなど感情に揺れることもありましたが、やっぱり最後は「ありがとうございました」と出会った皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。昭和大学での最高の看護師人生をありがとうございました。

看護部 師長 小西 悦子

このたび3月をもって定年退職となりました。昭和大学附属烏山病院から歯科病院へ異動して、10年余り皆様には大変お世話になりました。

初めて洗足の地に降り立った時には、駅からの近さにホットしたのも束の間、精神科から歯科への異動は戸惑うことも多く不安な日々でしたが、不慣れな私に熱心なご指導、温かいお声がけやお心遣いを頂戴して一つ一つ経験を積み重ねながら私なりに成長することができました。

た。

今改めて振り返りいろいろな思い出が脳裏を駆け巡り万感の思いと同時に皆様への感謝の気持ちで胸が熱くなります。

また、ご縁があり引き続き歯科病院でお世話になりますが、今後ともどうぞ宜しくお願いします。最後に、歯科病院の更なる発展と、皆様方の益々のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。

看護部 看護師 河合 優子

1982年4月入職し歯科病院に42年間お世話になりました。

入職当時は、医事課で窓口・保険請求等を23年間担当をしていました。2005年4月からは当時の管理課(現在事務課管理係)へ異動となり、主に管財業務・届け出関係等を19年間担当していました。

一緒に働かせていただきました、さまざまな職種の方々に助けていたとき、42年間歯科病院で働くことができました。皆様に感謝申し上げます。

事務課管理係 事務員 鈴木 春美

## 編集後記

3月で退職される皆様には、長きに渡りご尽力され敬意を表し、これからの皆様のご健勝とますますのご活躍をお祈り申し上げます。

そしてまた、桜の花咲く頃となりましたが、今年のお花見はコロナ禍がようやく開け、本格的に楽しむことが出来そうですね。

春風とともに、皆様にお幸せが訪れますようお祈りいたします。(S.S)

